201609014　連合神奈川　教育を語る県民のつどい

連合神奈川は、9 月 14 日（水）ワークピア横浜にて『教育を語る県民の集い』を開催した。
会場には、64 人が集まり、運輸労連からは 4 人が参加した。
連合神奈川は「教育は、未来への投資である」と位置づけから、現状の問題点や課題などの解決に取り組んでいる。今回は『労働教育』の現状に焦点をあてた取り組みが示された。

柏木会長（連合神奈川）

主催者あいさつで柏木会長は「労働教育は大切であります。若年層のワーキングプアが増え続けていること、ブラックバイトのターゲットになっていること、労働教育を受けられていないからこそ発生してしまう事例も出てきています。貧困が更に貧困を生みます。ある女性は、「18 歳になり、早く風俗で働きたい」、またある男性は、「住むところがないからシェアハウスで生活している」などの声が上がっています。今日の講義を受け、各労働組合に持ち帰って、こういった実情や、それに対する対策などを是非とも広めて頂きたい」と述べた。

第 1 講演として、一橋大学大学院社会学研究科　フェアレイバー研究教育センター、高須裕彦氏より『若者たちの労働実態と求められる労働教育の視点』というテーマで講演がされた。

高　須　裕　彦　氏

若者たちの労働実態と求められる労働教育の視点について、お話いたします。この 20 年間に日本の労働社会は激変しました。世界賃金ランキングも 9 位から 19 位に転落、相対的貧困率も 16%、ひとり親の子供の貧困率は 1 位となり、厳しい状況にあります。それに伴い、個別労働紛争も増加傾向にあります。講義の中では、労働教育実践に向けての教育方法、生徒たちのリアルにどう迫るかを考えなければなりません。

第 2 講演として、連合神奈川県中央地域連合事務局長、鍛冶邦彦氏より『地域に顔の見える労働運動と労働教育の接点』というテーマで講演がされた。
いわゆる「ブラック企業」さらには「ブラックバイト」等の実態も報じられる中、労働は「苦役」「我慢」ではなく、働く者の心身や生活を守る社会的ルールがあり、尊重されるべきことを学ぶ機会を

鍛　冶　邦　彦　氏

設ける必要がある。また私も教師出身ですが、教育機関にいる私たちは民間企業の実情や実態も知らなければなりません。また一個人となれば、「学校に任せてばかりでいいのか？家庭や社会の責任は？」という事も考えれば、家庭に帰れば親でもある労働組合員に対し、現状や対処方法を情宣することも考えなければならない時期にきてる。

ディスカッションを行った。

今回のテーマは「労働教育」と言う事で、教師向けのセミナーの内容でしたが、労働教育の基礎知識から始まり、日本の労働社会情勢、ブラック企業、ブラックアルバイトなど、1時間半という限られた中で、充実した講義でした。

基礎知識の中では、年収200万円以下のワーキングプアが全給料所得者に占める割合、25%いるという事実に、驚いている方もいました。教師目線からみれば、民間企業の実態が見えていない、そもそも残業があっても残業代がないなど、特殊な環境であるからこそ、民間企業の実態を知るべきであると、講師の方も話していました。労働教育を小学生から学んでもらう、キャリア教育に対しても、考えている以上に教師の知識と理解が乏しい事も実態としてあげられており、先ずは自分たちが変わらなければ「労働教育」は実現できないのではないかと感じました。

この様な基礎知識や教育に対しては、運輸労連でも多くの組合員に理解してもらい、実態を知った上で、労働運動を展開する事も必要ではないかと感じました。

丸全昭和運輸労働組合　萩原　和彦